

小中学校における ICT 機器の導入について

新学習指導要領に、「各学校において、コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を活用するために必要な環境を整え、これらを適切に活用した学習活動の充実を図る」ことが明記されるとともに、小学校においては、プログラミング教育が必修化されるなど、今後の学習活動において、積極的に ICT を活用することが求められています。教科指導に ICT を活用することは、児童・生徒の興味関心を高め、授業に集中して取り組めるなど、確かな学力の向上と定着に効果を生み出すことができることから、入間市小中学校 ICT 化推進プランに基づき ICT 機器の導入を計画しています。

1. 校務用パソコンの更新

校務用パソコンは、教職員が児童生徒の出欠状況や成績、指導要録の処理、教材の作成、保護者へのメール送信等、全ての校務に使用するためのものです。

入間市では、平成 21 年度（平成 22 年 3 月）に「平成 21 年度学校情報通信技術環境整備事業費補助金」及び「地域活性化・経済危機対策臨時交付金」を活用し、全小中学校の教職員に校務用パソコン（合計 666 台）と校務支援ソフトを導入し、各パソコンを LAN で結んだネットワーク環境の整備を行いました。しかしながら、導入時のパソコンのオペレーションシステムは、Windows 7 であり、平成 32 年 1 月には Windows 7 のサポートが終了します。サポート終了後は、セキュリティ更新プログラムの提供が行われず、セキュリティ上、たいへん危険な状態になることから、サポート期限が終了する前に、パソコンの更新を考えております。

校務用パソコンを整備し校務支援システムを活用し、指導要録や通知表作成など校務の電子化を図ることにより、教職員の負担軽減につながります。さらに、児童・生徒と向き合う時間をより多く確保することや、情報の共有や分析によるきめ細やかな指導や学校経営の改善及び効率化を実現することができます。

2. 教育用パソコンの導入

小中学校には、コンピュータ教室が整備され、児童、生徒用とし小学校20台、中学校40台のパソコンが設置されています。教育用パソコン及び周辺機器一式は、リース契約により更新しています。現在、小学校パソコン教室には、パソコン20台の配置であるため、2人で1台を使用し授業を行っています。今後、プログラミング教育が必修化されるなど、小学校での活用が増えるため、更新するにあたり、1人1台で使えるよう40台を目指します。

3. 電子黒板機能付きプロジェクター一式の導入

人間ロータリークラブより、電子黒板機能付きプロジェクター一式の寄贈申出がありました。平成30年から33年の3年間で12セット寄贈予定です。全小中学校及び教育センターに配置するとなると28セット必要となります。寄贈以外の16セットは、市の予算で購入したいと考えております。

現在電子黒板は、平成21年度（平成22年3月）に「平成21年度学校情報通信技術環境整備事業費補助金」及び「地域活性化・経済危機対策臨時交付金」を活用し、電子黒板機能付きデジタルテレビを導入しました。この電子黒板は、大型のため階を移動して使用することが困難な状況です。学校からも、電子黒板の増設要望があります。

【購入予定】

30年度	小学校	1セット	中学校	1セット	計2セット	
31年度	小学校	3セット	中学校	4セット	計7セット	実施計画に計上
32年度	小学校	3セット	中学校	4セット	計7セット	実施計画に計上